

第1回富山県自転車活用推進検討委員会の概要

1 日時 平成30年10月5日(金) 14:00~15:30

2 場所 富山県民会館8階 バンケットホール

3 出席委員 18名(代理出席含む)

4 主な意見

(1) 自転車活用全般について

- 自転車活用の条例や推進計画の策定について市レベルでも検討しているが、まずはぜひ県の方で策定をお願いしたい。
- 自転車の利用についての話なのか、サイクリングの話なのかを整理して議論する必要がある。
- 条例や推進計画といった形でビジョンを示すことも大事。

(2) 自転車による交通の役割拡大

- 普段の生活における自転車の利用ということでは走行空間の整備が必要となるが、このようなハード整備を行政だけではなく市民が関わって共同でやっていくべきであり、官民共同によるプロジェクトを募集してはどうか。
- 田園サイクリングコースといっても、道路構造令に基づき整備された普通の道路(車道)に単に青い線を引いただけであり、安全に自転車が通行できるというものではない。むしろ農道を活用した方がよいのではないか。
- 駐輪場と公共交通との関係でいうと、電車線の方はそれなりに連携できているが、市内電車やバスとの間の連携が取れておらず、駐輪のためのスペースが確保できない状況。今後道路改良される際に、駐輪のためのスペースを少しでも配慮いただければありがたい。また、公共施設や大型商業施設において整備されている駐輪場を近隣の公共交通機関の利用者の駐輪スペースとして利用させてもらえたらと考えている。
- 自転車に興味がない人に参加してもらえるようなイベントの開催について検討する必要がある。
- 現在自転車を持っておらず、自転車に乗る必要性を感じていないような人を巻き込んでいくような仕掛けづくりが必要。
- 自転車を始めたい人がいても、実際どういう車種に乗ったらよいのかが分からないのが現状なので、そういう人の選択の助けになるよう、サイクルステーションに設置する自転車の車種を増やすなど、各地のステーション整備に対する助成を行ってはどうか。
- 既存のショッピングセンターや道の駅の駐輪場と連携し、サイクルステーションの数を増やしていくことが必要。
- 自転車を日常的に使用するモチベーションをいかに高めるかが大事。例えば、自転車で

走行した距離をポイント換算できる「ポイント制度」を創設するなど、自転車を利用することの喜びを実感できるような仕掛けが必要ではないか。

- 高齢者が自動車を運転できなくなったとしても、その後の移動手段として自転車を選択していないのが現状であり、自転車を運転しにくい道路状況や降雪が影響しているのではないかと考えられるので、それらの課題を解決することが必要。

(3) サイクルスポーツの振興等による健康・福祉の増進

- 自転車の運動の強度という点からすると、ウォーキングよりも高いがジョギングよりも低いので、有効な有酸素運動になり、運動が苦手な人の健康づくりのツールとして自転車は有効ではないか。また、自転車に乗ることにより移動距離が広がって爽快感が得られることもよいのではないか。
- 現在スポレク祭の開会式などで行われているウォークラリーイベントの中にサイクリングのコースがあってもよいのではないか。そうしたイベントの中で自転車利用時の交通安全について周知することも考えられるのではないか。
- 現在、自転車競技のアスリートの育成を行っているが、県民体育大会への参加は数十名にとどまっている状況である。

(4) 自転車を活用した観光振興等の推進

- 湾岸サイクリングの参加者の枠を今後増やしていく上で、ドライバーや沿線住民の理解が不可欠であるとともに参加者のマナーアップが必要。
- 本県ならではの特徴ある取組みとして、サイクリング大会の開催はもちろんのこと、日頃の観光という面にも力を入れてほしい。例えば、県内の新幹線駅3駅においてスポーツサイクルのレンタサイクルを導入して、観光客が県内の田園風景をめぐれるようにするなどの支援をしてはどうか。
- 射水市では昨年「ジェントルライド」を開催している。サイクリストは増えてきていると思うが、「日常的に自転車に乗ること」から「サイクリスト」へと変わるのはいつ（どの段階）なのかが分からない。
- 富山地铁のサイクルトレインは10数年前から行っているがまだ認知度は低い。ただ、立山方面の利用者や学生を中心に人気があり、正確に集計しているわけではないが年間約2,500台の利用がある。
- サイクリングコースを活用した観光プロモーションについて、プロモーションの対象をもっと絞るべきではないか。どの程度の運動強度の人を呼び込みたいのか（例えば、レンタサイクルで周辺めぐりをすれば足りるのか、自転車を自ら持ち込んでガッツリと乗りまくるのかなど）、しっかりとターゲットを分けてプロモーションを行うべきである。
- サイクリングを楽しむには、ツアーガイドの育成が不可欠である。
- 本県でサイクリングツアーを行う場合のバリエーションが少ないことが課題。湾岸サイクリングコースを1日だけで走破するのは難しい。鉄道との連携の強化や、途中の寄

り道スポットを増やすといった取組みが必要ではないか。

- 外国の方には体験型ツアーの人気がある。県内の歴史や文化の魅力的なところを取り入れたサイクリングコースを作っていけば、バリエーションが豊かになるのではないか。
- グランドフォンドは年々参加者が徐々に増えているが、参加者の交通のマナーの悪さが問題になってきており、何らかの対策が必要と考えている。
- 「ツール・ド・のと」がそうであるように、サイクリングイベントの参加者が毎年ずつと増え続けるわけではなく、いかに参加者に喜んでもらえる大会にしていくかが課題。
- 朝日町では隣県（長野県白馬村）と連携したサイクリングの取組みを行っている。
- 県内各駅で自転車の乗り捨てが可能なシステムの構築が必要。
- あいの風とやま鉄道では、今年の10月20日（土）に臨時列車の形で初めてサイクルトレインを運行する。昨日申込みを締め切ったところ、定員の40名を越える申込みがあった。
- 県総合体育センターに併設しているサイクルステーションでは、4月からの半年間の窓口の相談件数として、トイレの利用や空気入れの貸し出し等で約10件の問合せがあった。
- 施設に備えているサイクリングMAPの外国語版がすぐになくなってしまいが、近くにある企業の外国人労働者の人が持っていくためと考えられるので、外国人労働者を雇っている企業に配付してはどうか。

（５）安全で安心な交通環境の創出

- 松山市に視察に行ったが、自転車乗用者のヘルメットの着用率が高いと感じたところであり、条例の制定や総合的な計画の推進により住民に対する意識啓発が重要。
- サイクリングイベントに合わせて自転車の安全な利用を呼びかけるような取組みも必要ではないか。
- PTAとしても年度当初に自転車通学になる中学生に対して自転車損害賠償保険への加入を呼び掛けているものの、実際の加入率がどうなっているのかは把握できていない状況。